

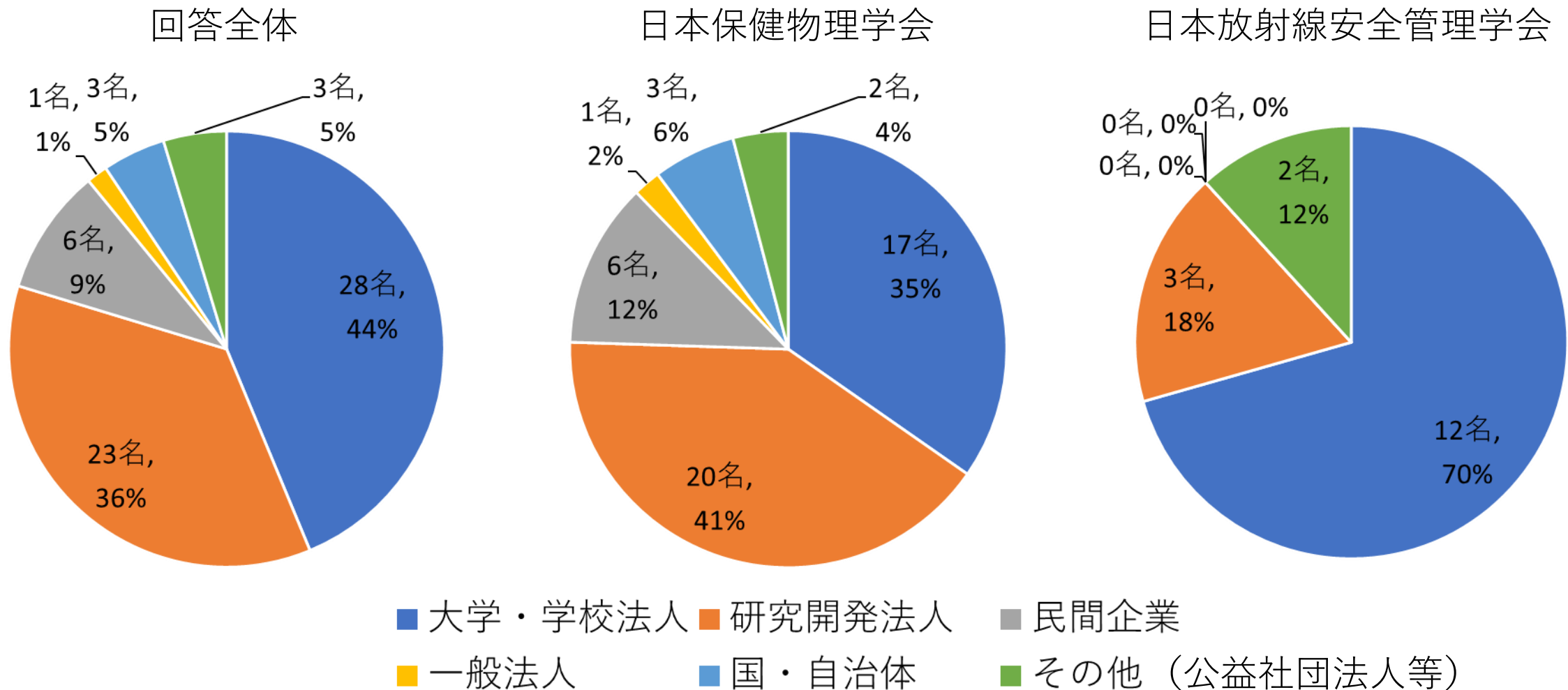
日本保健物理学会及び日本放射線安全管理学会の 若手学会員を対象としたアンケート調査結果

実施期間	: 2021年10月27日～11月8日	
対象者	: 40歳以下の若手会員	
回答数	: 64名	
内 訳	: 日本保健物理学会に所属	47名
	: 日本放射線安全管理学会に所属	15名
	: 両学会に所属	2名

アンケートにご協力いただきありがとうございました

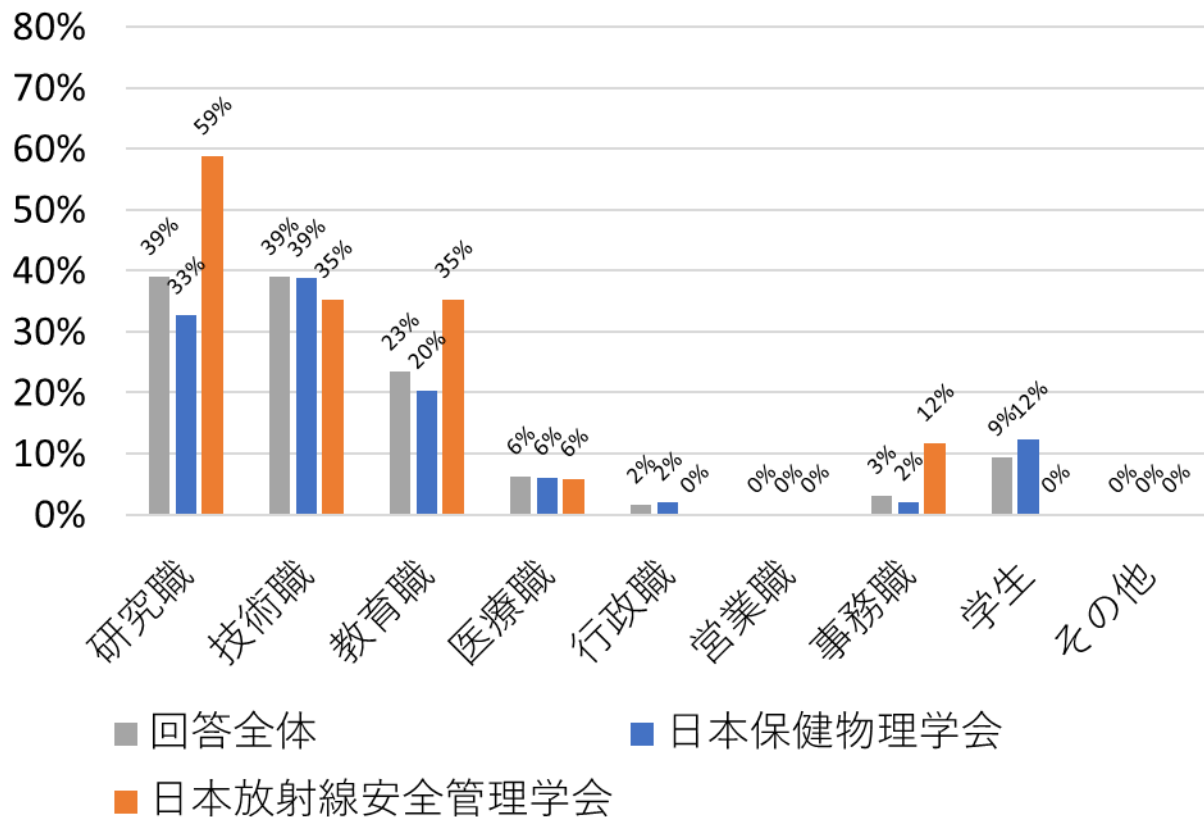
1. 一般的事項に関する質問

Q.所属機関を教えてください。

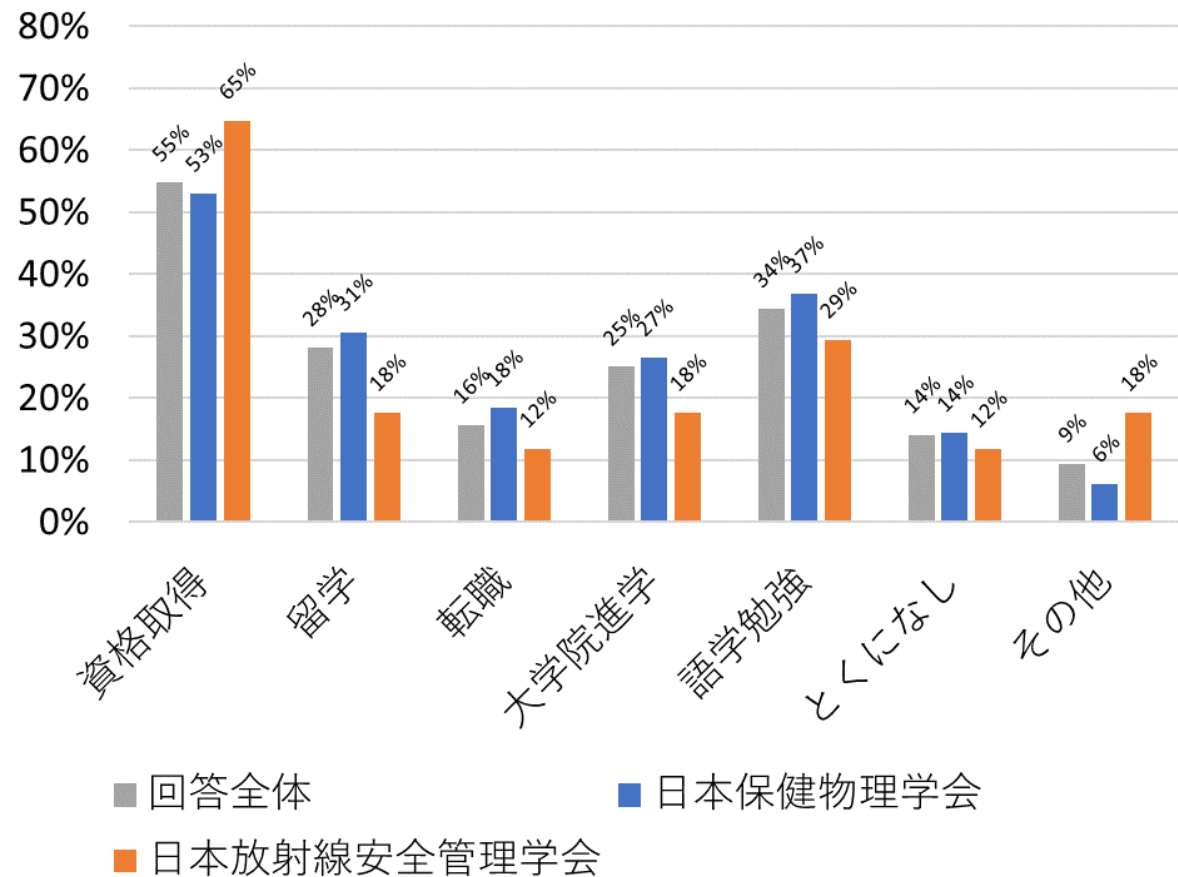


※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q.職種を教えてください。(複数回答)



Q.キャリアアップのために、どのような活動を考えていますか？(複数回答)



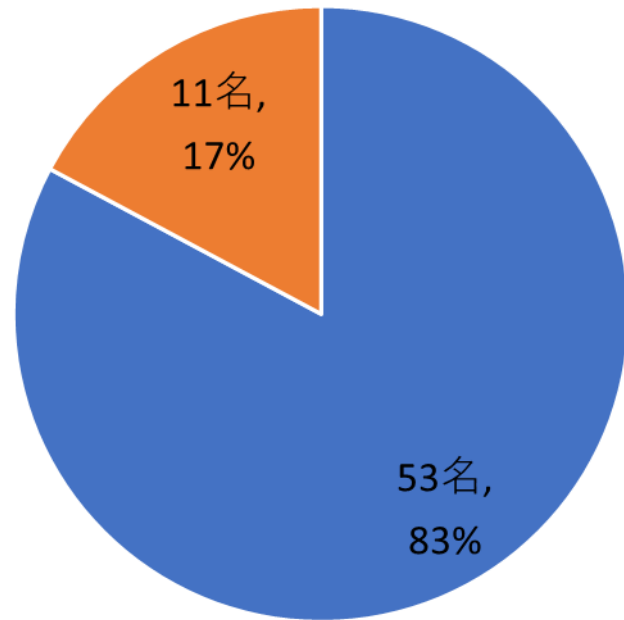
その他：研究実績を積む、論文投稿、研修会・勉強会の参加など

※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

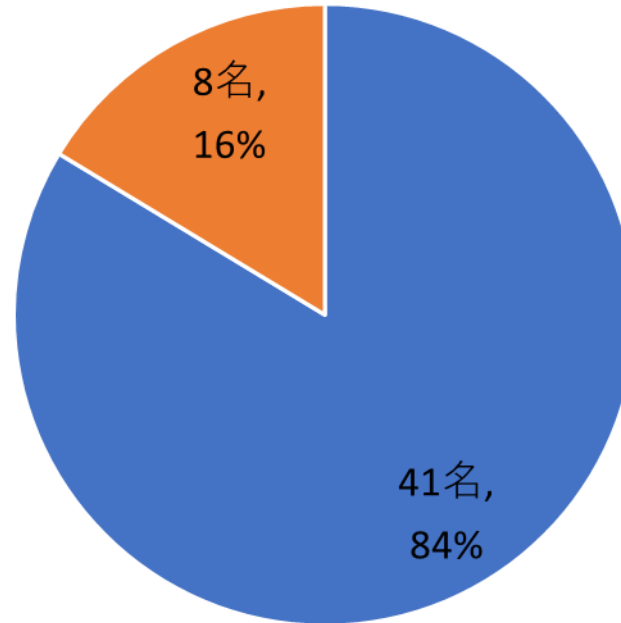
2. 学会の連携に関する質問

Q.日本保健物理学会と日本放射線安全管理学会の両学会が、学会間の連携に向けて取り組んでいることを知っていますか？

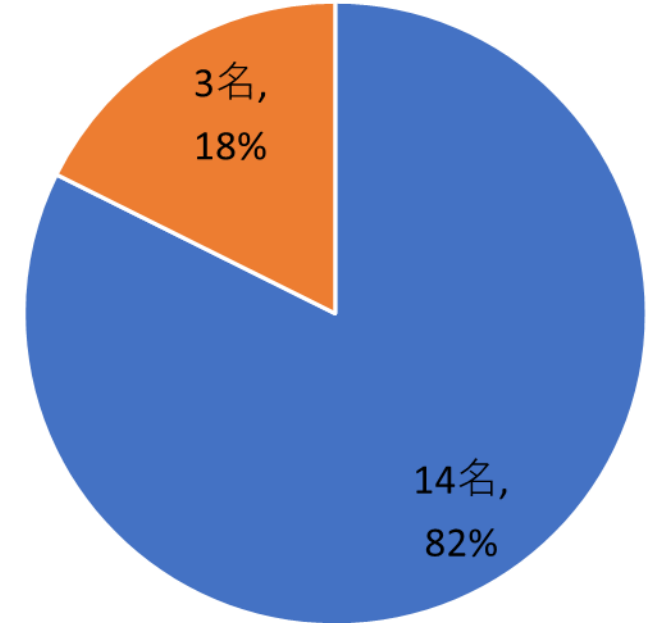
回答全体



日本保健物理学会



日本放射線安全管理学会

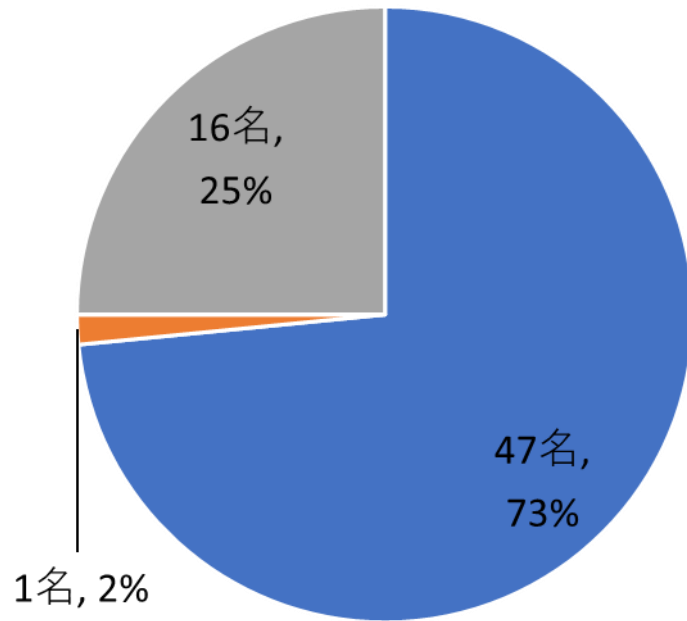


■ はい ■ いいえ

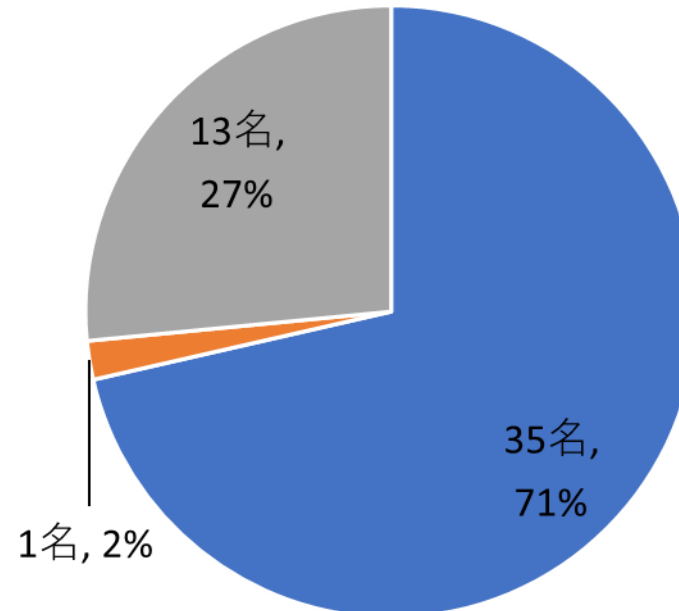
※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q.両学会の連携は若手学会員にとって有益だと思いますか？

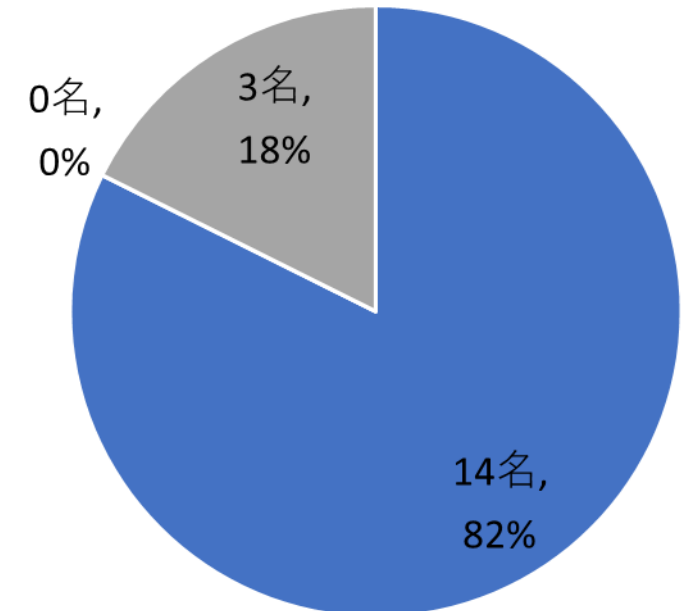
回答全体



日本保健物理学会



日本放射線安全管理学会



■ はい ■ いいえ ■ 分からない

※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q. (前問が「はい/いいえ」の方にお伺いします。) その理由を教えてください。

回答が「はい」の理由 (日本保健物理学会)

- 似通った分野であり、人数が減っている中、分かれていることのメリットが思いつかないため。原子力学会のように、分科会として両学会の特色をもつ専門グループが残る形も良いと思います。
- 分野の近い方と情報共有・意見交換を行うことで、新たな知見・研究可能性が広がると考えるため。
- ほぼ同じテーマを扱っているので、連携した方が良い。
- 両学会ともに人材不足であり、議論を活発にするために連携は必要
- 学会の連携が進めば、われわれ若手同士のつながりが強くなると思う。どの業界でも若手の人材が減っており、同じ放射線という枠では横のつながりを強めたい。
- 分野内でのテーマとして被る部分において情報共有できることや人脈が増えるから。また、両学会ともに若手が減少しているため、共同で行えることについては一緒にやる方が人手においても有利になるから。
- 合同大会のように、幅広い情報を入手できる機会が増えると期待できる。
- 連携してのイベント開催等は様々な専門分野を持つ人材と交流する機会になるため。
- 両学会とも大きい目で見れば近い分野だと思うので (細かな違いはあるかもしれないが)。
- 他学会との交流は、新たなアイデアの創出につながるの、いろいろ意見交換ができるのは良いことと思います
- より多くの人と交流することで学会の活動が活発になると思います。
- 日本保健物理学会会員の中には、放射線管理を職務とする者が多く在籍していると思う。一方で放射線の安全管理を専門としている者は少ないため、良い学びの場となるように感じる。
- 連携の主なものは合同大会開催だと思いますが、発表聴講や意見交換を通じて視野を広げることができるため。
- 幅広い分野の若手と交流を持てるから
- 研究と現場の両輪を担う2つの学会が1つになることで、更に学会としての研究や実務のレベルアップにつながると思われるため。
- 例えば合同大会などこれまで接する機会の少なかった他分野の先生方と議論する機会を得たり、自身の専門外の分野について知る機会を得られるため。

Q. (前問が「はい/いいえ」の方にお伺いします。) その理由を教えてください。

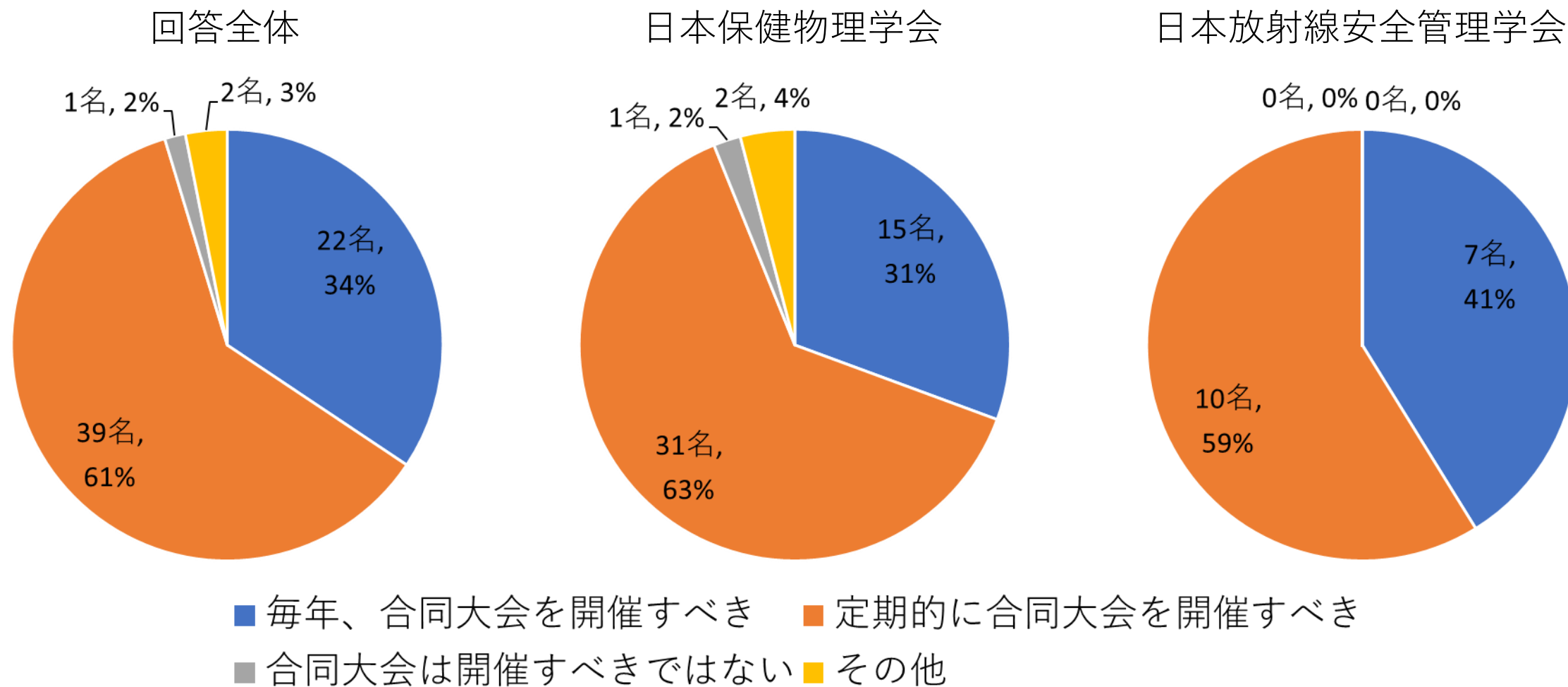
回答が「はい」の理由 (日本放射線安全管理学会)

- 内容的にどちらも勉強になり、放射線関係の仕事をする上でとても有益だと思う
- 所属していない学会の情報取得や他分野の交流につながるため。
- 研究分野が近いので連携した方が有益。
- 日本保健物理学会および日本放射線安全管理学会は近い内容に取り組んでいる学会員が多いと思われるため、知見や知り合いを増やすためにも連携は有益であると思う。
- 両学会の領域 (とくに放射線防護) に重なりがあることから、分野間の情報共有や視野が広げられる点で有益と考えている
- 放射線安全管理の分野と保健物理学分野は密接に関わっていると考えているので。

回答が「いいえ」の理由 (日本保健物理学会)

- 「両学会の連携」が悪い意味で仕事を増やすので、個人で連絡を取り合った方がスムーズである。

Q.学会連携の取り組みの一つとして、現在「日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会の開催」が行われています。今後の「研究発表会/学術大会の開催」の在り方について、以下の項目から選択してください。



※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q. 「研究発表会/学術大会の開催」の在り方について、その理由を教えてください。

回答が「毎年開催」の理由（日本保健物理学会）

- やるなら毎年やった方が、業務の引き継ぎ等もスムーズにできるかと思います。就職活動の際に他分野の学会で活動された方と比べられることもあると思うので、規模が大きい方が放射線分野の存在感をアピールでき、また、（外から見て）人数が多く活発な活動になることにより、過疎化しておらず魅力ある分野であることが学生さんへのアピールになれば良いと思う。
- 一度に発表した方が情報収集の効率が良い。
- 以前、安全管理のセッションに参加し、新たなアプローチを発見できた。特に「実務において、どのように活かすのか？」という視点は、技術者の私にとってとても有益であった。
- 多様な専門分野の人材が一堂に会して発表することで分野を越えた議論が生まれるので頻度は多いほうがよい。
- 各々の学会員の発表者数の減少や開催費用、オーバーラップする分野もあるので、合同でやる方が合理的かと思います
- 合同で開催することで、情報交流の良い場になると思う。また、定期的では開催準備の負担が大きくなるため、年1回程度が良いと思う。

回答が「毎年開催」の理由（日本放射線安全管理学会）

- どちらか一方の知識のみ必要という人は少ないと思う。年会費等コストの関係で、どちらの学会に所属している場合が多いと思うので、合同でよい。（なんなら、学会自体統合してはどうか）
- 重なっているテーマもあれば、それぞれの学会の色もでているため、合同大会のほうが参加する側とすればありがたい。
- 関係する内容をお互いの会員が情報共有できるため。
- 学術発表の場なので、できるだけ多くの分野の発表を聴く機会があったほうがよいと思う。

Q. 「研究発表会/学術大会の開催」の在り方について、その理由を教えてください。

回答が「定期開催」の理由（日本保健物理学会）

- 研究内容が近しいため、合同で実施する方が合理的と感
じるから。
- 毎年では、二つの学会が存在する意義がないように思え
る。定期的に行うことが、二つの学会が存在する意義と
情報交換の両者をとれて、丁度よいと思う。
- 毎年開催するとなると各学会の差別化がよくわからなく
なる。現時点も保物と安全管理学会の違いはよくわかっ
ていない
- 合同大会と保健物理学会だけの大会の両方に参加したこ
とがあるが、どちらにも良さがあつた。合同大会も有益
であるが、保物だけの大会がなくなることも良いと思わ
ない。
- 他分野の専門家や先生方からの意見を頂戴することがで
きる機会であるため。また、シンポジウムなどで多くの
先生を招聘しやすいため。
- 合同であることを意識せずにテーマを設定したときにに
パラレルセッションになって両学会のメンバーが混ざら
ない場合には、毎年やると参加者が合同大会用のテーマ
と日常的なテーマとの両方に追われて大変になるかもし
れない。ただし、テーマ的にかぶる部分が非常に多く、
何も考えなくてもセッション自体が合同になるのであれば、毎年行うのがよいと思う。また、学生など短期間し
か学会に在籍しない人のことを考えると毎年の方が良い。
- 毎年でも良いと思うが、そうすると2つの学会が存在し
ている意味が薄くなってしまうと思うので。
- 合同ばかりになるとそれぞれの学会の存在意義がわかり
にくくなると思います。
- 特定の分野の人達だけで議論をとことん深掘りしていく
大会も必要と思うので、各学会での単独開催は必要と考
えます。両学会がそれぞれの専門性の「深さ」と「広
さ」の両軸のバランスをどのように考えるか、に依りそ
うです。

Q.「研究発表会/学術大会の開催」の在り方について、その理由を教えてください。

回答が「定期開催」の理由（日本放射線安全管理学会）

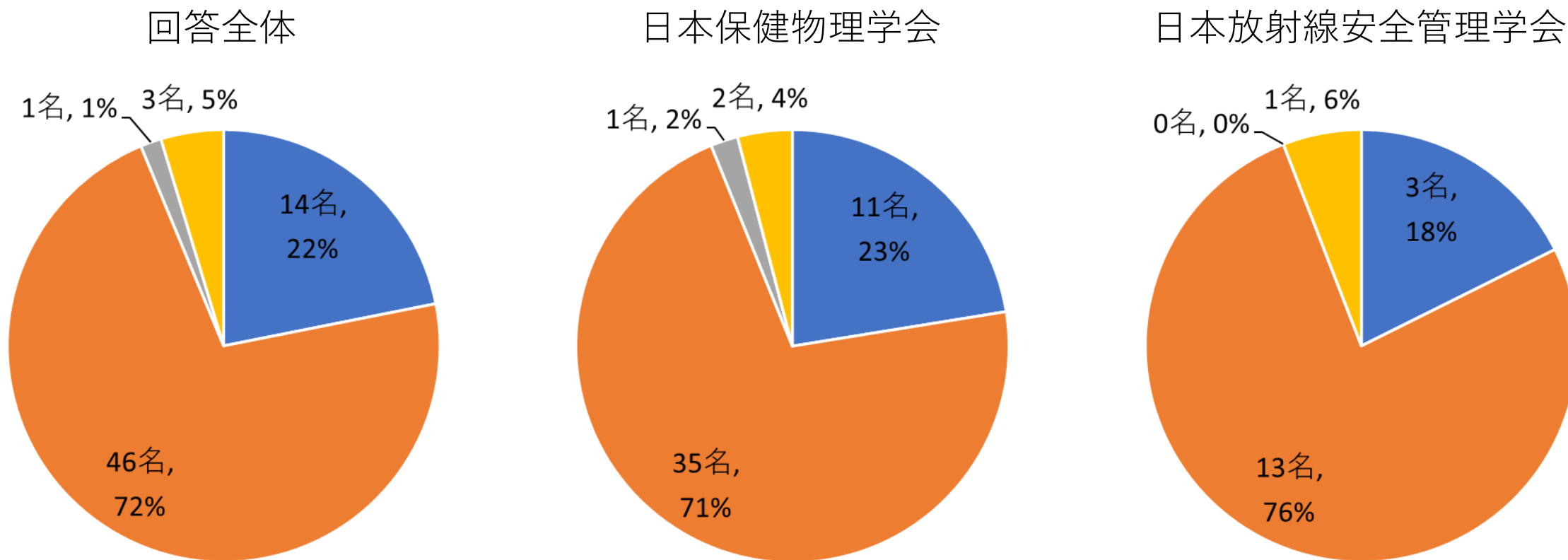
- 私は研究・教育職に属していますが、同学会での学会発表や論文発表は、あまり成果として認めてもらえないので、できるだけ気軽に発表できる雰囲気が必要です。具体的には、拘束時間を短くして(開催期間を短くして)、1日の情報密度を上げてほしいです。世界を目指すためのステップアップとしての位置づけで、会員にとって有益な意見交換ができれば、学会として成長するのではないのでしょうか若手に対して門戸を広げるのであれば、学生は非会員であっても発表できる権利を与えても良いかもしれません。指導教員が会員であれば発表しても良いとするなどの柔軟な対応ではいかがでしょうか。
- 別に開催すると、発表件数、参加人数がどちらも減少する。それぞれの学会は独自性もあるのだろうが、一人の参加者としては合同開催にもらった方がいろいろな発表が聞けて単独開催よりも参加する気になる。
- 近い分野の学会が合同大会を開催するのは情報共有の点で良いことだと思います。しかし、毎年開催となると1つの学会に合体した方が良いのでは？と感じるため、現在の隔年開催（定期的に開催）がベターだと思います。
- 両学会の独自色を残すことも学会のありようや存在意義の面でも重要と考える。合同大会の開催は有益であるが、合同大会ありきになってしまうのは両学会の存在価値を下げてしまうように感じるため、隔年開催などの特別感がある方がよいのではないかと。

その他の回答（日本保健物理学会）

開催の在り方：「研究発表会を合同、シンポジウムを単独」の年と「研究発表会を単独、シンポジウムを合同」の年を交互に繰り返す、毎年「研究発表会は合同、シンポジウムは単独」とする、など。

理由：別の学会として運営を続けるのならば、それぞれの特色を出せる場は残しておいた方が良く思う。

Q.今後の「シンポジウムの開催」の在り方について、以下の項目から選択してください。



- 毎年、合同シンポジウムを開催すべき
- 定期的な合同シンポジウムを開催すべき
- 合同シンポジウムは開催すべきではない
- その他

※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q. 「シンポジウムの開催」の在り方について、その理由を教えてください。

回答が「毎年開催」の理由（日本保健物理学会）

- 学会よりも意見が出しやすい形のシンポジウムが両学会にとって良いかと思えます。また、やるなら毎年やった方が、業務の引き継ぎ等もスムーズにできるかと思えます。
- 議論を活発にするため
- 様々なシンポジウムにおいて複数学会の共催となっていることはよくあり、まずはシンポジウムから毎年合同で行っても良い気がするから。

回答が「定期開催」の理由（日本保健物理学会）

- 両学会の連携が放射線防護や放射線安全の分野の発展において重要であると感じるから。
- 合同大会があれば、シンポジウムは合同でなくても良いと思う。むしろ、年一回の合同大会と、それぞれの特色を打ち出したシンポジウムというすみわけも良いと思えます。
- シンポジウムであれば、学術大会と比べてスペシフィックなテーマとなるため、毎年開催は難しいのではないかとと思われる。
- シンポジウムは専門分野以外の最新の知見を深めることに資するので、テーマがあれば開催が望ましい。
- 定期的に、異なる学会の考えをすり合わせるのは良いと思えます
- 合同ばかりになるとそれぞれの学会の存在意義がわかりにくくなると思えます。
- 合同で扱うべきテーマがあればその都度開催すれば良いと思えます。開催することが目的になってしまっただけでは意味がないので、「毎年」のような決め方には反対です。逆にテーマが複数あるのであれば、年に複数回開催することも有益でありえると思えます。

Q. 「シンポジウムの開催」の在り方について、その理由を教えてください。

回答が「定期開催」の理由（日本放射線安全管理学会）

- 元は一つの組織とはいえ、性格が異なる部分もあるので、シンポジウムまで無理して合同にする必要はないのではないか？2年～数年に1度でもよいと思う。

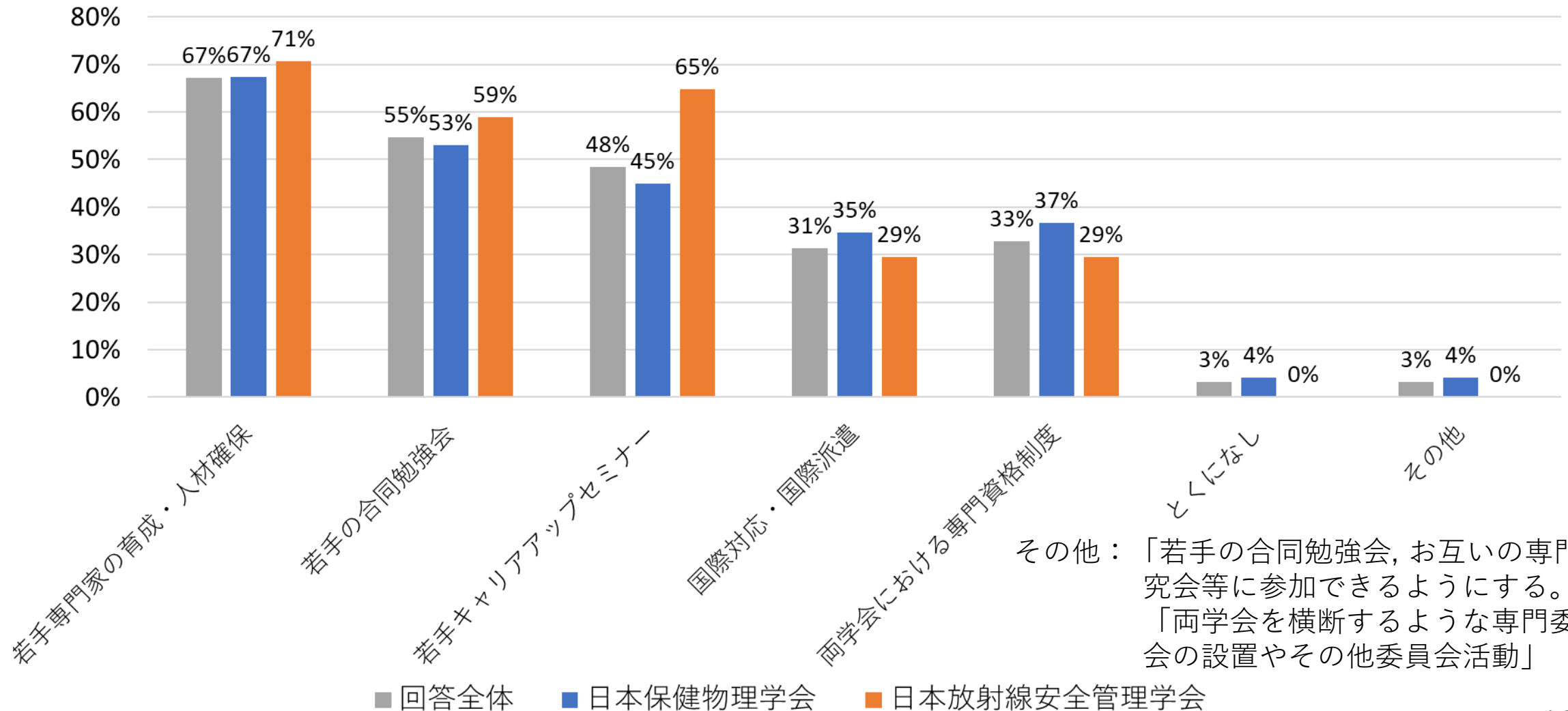
回答が「合同シンポジウムを開催すべきでない」の理由（日本保健物理学会）

- 合同大会を開催することで、両学会にどのような成果（あるいはメリット）が生まれるのか。合同大会を開催することが目的になると、互いに疲弊し、特に目立った成果は得られないように感じる。

その他の回答（日本放射線安全管理学会）

- シンポジウムに参加したことがないので分からない。

Q.両学会の連携において、「日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会の開催」の他に、どのような取り組みが可能だと思いますか？（複数回答）



その他：「若手の合同勉強会, お互いの専門研究会等に参加できるようにする。」
「両学会を横断するような専門委員会の設置やその他委員会活動」

※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q.その理由を教えてください。

日本保健物理学会

- 他に業務がある中、なかなか学会全体のことを考えて行動できる方は少ないかと思います。キャリアアップにつながる事があると、若手も参加すると思いますし、結果的に両学会の活動が活発になるかと思います。
- 学生さんにとって、進路選択の視野が広がると考えます。また、若手のうちに（仕事抜きで）仲良くなることにより、その後の仕事の幅が広がり、共同研究やシンポジウムの企画なども進めやすくなると思います。
- 若手の人材不足はどの業界でも喫緊の課題だと思われる。その中で、人材確保や育成を合同勉強会や資格制度などを通じて取り組むことがいいのではないかとと思われる。
- 学会が若手のキャリアを支援することで、この分野を志望する学生・若手が増えると考えます。
- 互いの学会の特色を知れるため、若手自身の専門性がより定めやすくなると思います。
- 専門資格制度は既に放射線取扱主任者などがあり、制度自体を設けることが難しいのではないかと。
- 育成や人材確保については、両学会で近い就職先候補がかぶる場合には連携する、人材や公募情報を紹介し合うことは就職先や転職先を探す学生や若手に有益であると考えますが、これは学会の上層部同士での連携が必要であると思う。また、専門資格制度については、学会連携の枠内だけでは難しく、学会員が在籍している組織などで効力のある資格として認められる必要がある。最近できた試験統計家認定制度by計量生物学会などは参考になるかもしれない。
- 両学会の若手人材が減少しつつある現状は両分野の今後を考えた時に重要な問題であるため、入会への意欲が高まるような取り組みを共同で行うべき。
- 上記の取り組みは当該分野にとって喫緊の課題であると考えております。一方、若手あるいは学生人材の確保を、人材の足りていない（人数が少ない）若手層に任せている現状では、かなりハードルが高い取り組みであると感じる。

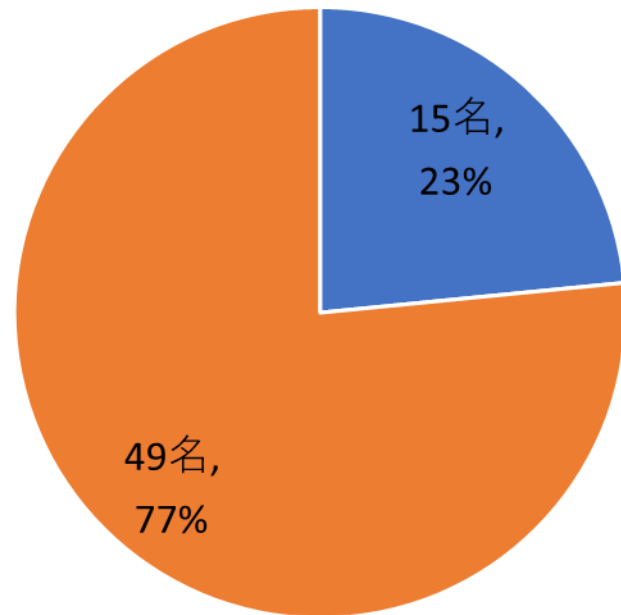
Q.その理由を教えてください。

日本放射線安全管理学会

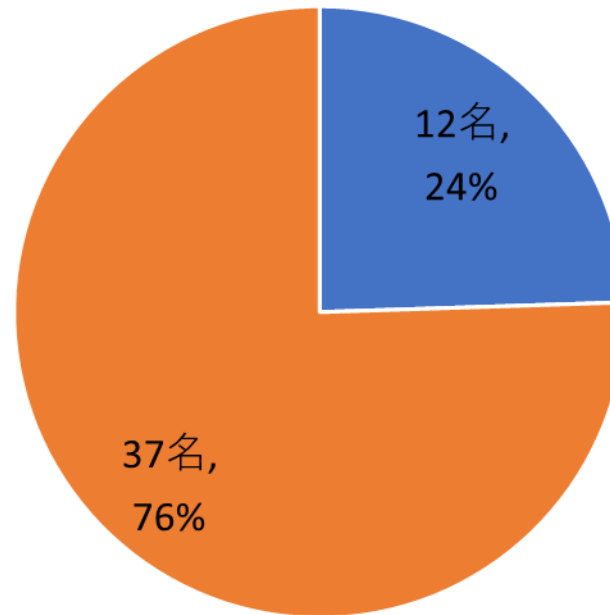
- 専門資格制度があると、すでに実務経験が長い者であっても、再勉強するきっかけになると思う。
- 専門家といっても、研究、安全管理、教育など様々な分野がある。両学会ともに多種多様な職種、立場の人材がそろっていると思うので、それぞれの分野で若手を育てることが可能ではないかと思う。
- 専門資格制度はやめて欲しい。学会にお金を集めるのには良いのかも知れないけど、すでに国家資格がある分野ので学会独自に行う理由はないと思う。
- 合同勉強会やセミナー等の比較的成本のかからない活動から取り組み、活動報告や結果を出していくことで、人材育成や国際派遣等の中長期的でコストもかかる活動にも予算を認めてもらえる可能性はあると思うため。
- 管理学会には学生会員、特に博士課程学生の会員は皆無（少なくとも自分の知る限り）である。このことが放射線安全管理分野におけるキャリア形成のしにくさに影響しているのではないかと思う。保物学会には学生会員も多数在籍し、学位取得ができる研究テーマにも取り組んでいるので、まずはこの方たちを（学生会員は会費無料などの措置で）管理学会に取り込み、キャリアパスを考えてもらうきっかけにはどうか？、ゆくゆくは、管理学会でも学位取得ができる研究テーマが育って行けばよいと思う。

Q.一方で両学会の連携において、連携が難しい取り組みもありますか？

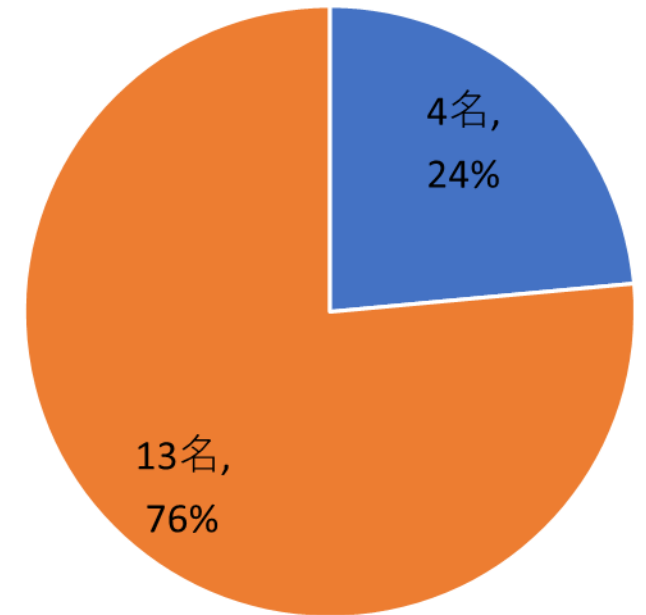
回答全体



日本保健物理学会



日本放射線安全管理学会



■ はい ■ いいえ

※両学会に所属されている方の回答はJHPS/JRSM両方にカウントしています。

Q. (前問が「はい」の方にお伺いします。) 具体的に難しいと思われる取り組みおよびその理由を教えてください。

日本保健物理学会

- パブリックコメント等を出す際には人数の多い保物学会員の意見で、安全管理学会の意見が見えなくなってしまう可能性がある。
- 先に挙げた専門資格制度。関係各所との綿密な調整が必要。その他のものについても、若手会員が減っている中で、各々の業務量が多い場合には連携のための仕事まではこなせないかもしれない。そのような場合には、何から始めていくのがいいのか、よくわからない。
- 合同勉強会について、出身分野が異なる若手同士でもしっかりコンセンサスを形成し、積極的な参加を促す必要がある。
- 企画や運営など。それぞれの若手研や学友会の独立性が弱くなり、特色がなくなってしまうため。

日本放射線安全管理学会

- 何故、保物があったのに、安全管理学会が出来たのか、あえて学会を立ち上げたのは明確な意義があったはず。当時と状況が同じか分からないが、変わっていないなら、連携してもまた同じ状況になるのでは？

Q.今後の学会に求めたいものがありましたら、教えてください。

日本保健物理学会

- 先輩たちの話を聞くと福島原発事故時の10年前と比べても、放射線に携わる人材がかなり減ってきている。福島原発事故を経験し、放射線を正しく測定することの重要性を改めて実感したところであり、そのような専門家の育成や人材確保を、この連携を通じて取り組んでいただけると若手にとっても大きなメリットだと思われる。
- アンブレラ事業の勉強会の様なオンラインセミナーやe-ラーニングの開催を希望
- 両学会ともここで発表することのメリットと感じられるような強みや専門性を明確にすべきと思う。学問は細分化しているので、学際領域を巻き込んで全体の規模を大きくしつつ、中でサブグループを形成するのが現実的と思う。
- 学術大会等のオンライン開催が行われていますが、オンラインの最大の利点のひとつはオンデマンド視聴が可能なことだと思います。ぜひお願いします。

Q.今後の学会に求めたいものがありましたら、教えてください。

日本放射線安全管理学会

- 許可を要しない量でのRI利用について、もっと深く議論するべき段階にきていると思う。どんどん施設がなくなっていく、放射線施設の拠点化がなされるかもしれないが、実際のところ、よっぽどのことのできる施設でない限り自施設で使えないのであれば、RIを使うという選択肢自体が出てこないと思う。許可を要しない量で済むのであれば、特段の法的規制はないわけではあるが、昔の雑なRI利用状況を知るものは、わずかであっても、管理区域外で使用すべきではないという意見の者が少なくないと思う。もし、学会の方から許可を要しない量での使用を積極的に残すべきだという意思表示があれば、管理区域はなくしてしまっても、わずかな事業所内の利用者のために端っこにはあっても利用を残す施設が増え、それが放射線や放射性物質、またそれらの取扱いに対する確かな知識を残すことにつながるように思う。
- 安全管理や放射線教育に関しては、両学会とも重要なテーマの一つであると思うが、教員の実績として大きなウェイトとなる研究費の獲得や国際論文報告などの場が少ない。若手教員としては、それらをサポートしていただけるような取り組みが増えてくることを期待したい。
- 学術研究が活性化すればよいと思います。

ご清聴いただきありがとうございます